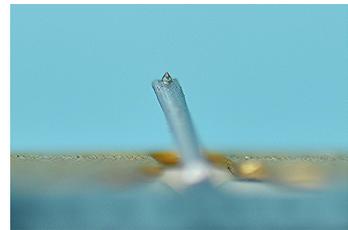
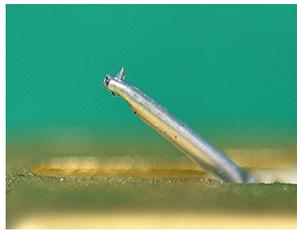
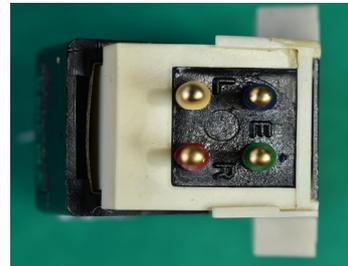
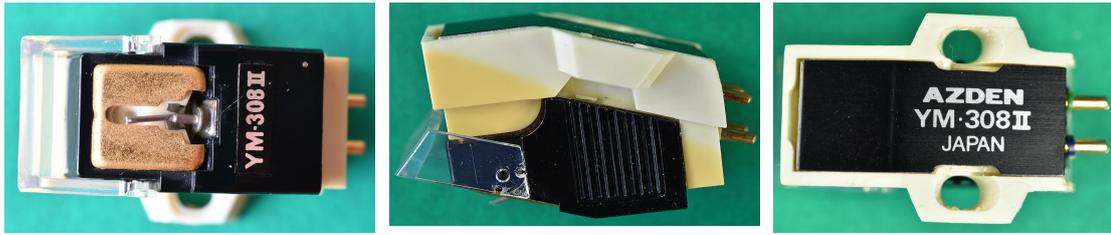
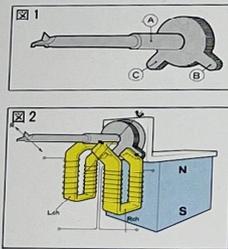


NO:9.1 形式: YM-308 II アツデン (AZDEN) 日本圧電気(株)



すばらしいチャンネルセパレーション。  
アツデン独自のTPIM方式。  
トライポールIM (TPIM) 型カートリッジ  
**YM-308II** (日本・USA・カナダ PAT.)  
¥16,000

確実なチャンネルセパレーションを実現した  
TPIM (トライポールIM) 方式について



まず、この創意をつづいた、アツデン独自のTPIM方式をご説明しましょう。カンチレバーの根元についたトライポールアマチュアAの形状が図1です。これがTPIM方式のかなめ。とくに、パイプ状の突起物Aは、カンチレバの補強材として動く一方、発電自体にも関与していません。その動作原理が図2です。トライポールアマチュア全体が、後部に位置するマグネットに密着した磁性材によって励磁されています。たとえば、今、Lchの信号をピックアップするとします。振動系は、矢印の方向に動き、Rehを受

けつポールピースに、トライポールアマチュアのAとBが離反運動を重ね、Rehに電圧が発生することになります。一方、Lchのトライポールアマチュアは、LchのポールピースをAに平行に、Cは回転状に運動するのでここでは電圧の発生は起こりません。Lchに対しても、これと同様の動作をします。TPIM方式のすぐれたチャンネルセパレーションが、感覚的にもお判りいただけるでしょう。クロストーク30dBは、たっぷり余裕をみたスペック表示です。

振動系の軽量化で、抜群のトレーシング能力

MM型ではマグネットを、MC型ではコイルを、カンチレバーの根元に背負うことになります。したがって振動系の質量を減少させるには限界があります。それに比べ、このTPIM型は、肉薄の磁性材をアマチュアとして使用しているため、振動系の実効質量は非常に小さくなっています。レコード音溝への追従性はすばらしく、抜群のトレーシング能力を示します。また、パイプアマチュアがカンチレバーをおおむね重構造になっていますので、これが補強材として働き、分割振動を抑えています。

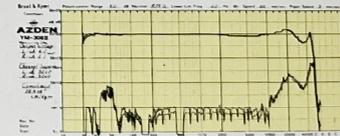
振動支点を明確にしたワンポイントサスペンション方式

YM-308IIの振動系は、極細のピアノ線で支えているワンポイントサスペンション方式。このため、再生周波数の全域にわたって、振動支点を明確にすることができます。同時に、針先とレコード音溝との摩擦によって生じる有害な振動系の前後運動がなく、安定した動作を保証しています。振動系の支点移動によって起る音のこりや歪が少ない、すぐれた再生音質に結びつきました。

L、Rのバランスがよい左右対称形の磁気回路

TPIM方式の磁気回路は完全に左右対称形といえます。磁路長の長短によって起こりがちな高域特性のL、Rバランスの崩れがなく、常に安定したチャンネルバランスを保証します。その上、従来のカートリッジに比べ、磁気回路を短くすることができ、磁気的ロスを軽減しました。自然感という意味で、現在もつとすぐれた音をもつカートリッジ。

YM-308IIは、クセをもたないということでも特長的であり、電気的介入を感じさせないということも見事に特長的です。一言でいえば「自然感」という表現が適当でしょう。あるべきものが、そこにしっかりと定位し、そのままの色あいとニュアンスをもって再生される。レコードがどれほど人為的なものであっても、トランスデューサーのあり方次第で、これほどまで「ホンモノ」に近づけてくれるという証しを示したYM-308IIの音です。



規格 周波数特性: 10Hz~30,000Hz/出力電圧: 4mV/出カバランス: 1dB以内 (1kHz)/チャンネルセパレーション: 30dB (1kHz)/インピーダンス: 2.8kΩ (1kHz)/コンプライアンス: 18 × 10<sup>-6</sup>cm/dyne/針圧: 1.7 ± 0.3g/針先: 0.3 × 0.3mmソリッドダイヤ特殊タ円針/自重: 6g

- ①IM、② 10 - 30,000、③ 4、④ 0.3x0.8mil、⑤ 6.0、⑥ 1.4 - 2.0、⑦、⑧、⑨、⑩、⑪ 30、⑫、⑬ 18、⑭、⑮、⑯、⑰、⑱ 16,000、⑲、⑳ パンフレット、ステレオ'ト'78

コメント: この製品はPIEZOという名前で同じ形式名で、1976以前に日本圧電気(株)から発売していた。1977年以降、アツデン (AZDEN) になったようです。

試聴したところ明瞭感のある美しい歪み感のない音、低音の響きも大変良い。